

対象品目:全品目

規範項目

13

土壌の侵食軽減対策の実施

規範の必要性や背景

*土壌は降雨や強風によって侵食を受けます。土壌侵食により有機物を多く含む作土層が流亡すると、生産面に影響を及ぼすほか、河川等の水質や周辺住民等に影響を及ぼします。侵食を受けやすい場所では、適切な対策を行う必要があります。

取組事項

- 侵食を受けやすいほ場では、カバークロープの作付や等高線を考慮した畝立てなどの対策を行う。
- 風向きや等高線を考慮した耕うんや、防風垣等による表土の飛散防止対策を実施する。

解説

●日本は降水量が多く、急峻な地形上の農地も多いことから、畑地においては、土壌の侵食が発生する可能性が高いため、土壌の侵食が懸念されるほ場では、以下の取組を進めましょう。

・水食対策

等高線に沿った畝立て、侵食によって生じた溝の速やかな修復、土壌の透水性の改善等を行う。

地表面の流水速度を下げるために、等高線に沿って帯状の水平面を設ける等斜面分割を行う。

植物等による地表面の被覆等を行う。

土壌のほ場外への流出を防止するため、グリーンベルトの設置等を行う。

・風食対策

畝の間隔を狭くする、風に対して直角に畝を立てる等の改善を行う。

植物等による地表面の被覆等を行う。

*H19 農林水産省生産局作成資料「農地土壌が有する多様な公益的機能と土壌管理のあり方(3)」より引用

●取組事例

・カバークロープの作付の実施

東海村では、北風による土ぼこり対策として、麦の作付を奨励しています(図1)。

麦を作付けすることにより土ぼこりを抑えることができます。

カバークロープは、土壌侵食の防止や有機物の供給などを目的に、主作物の休閑期や畝間、休耕地、畦畔などに栽培される作物です。カバークロープの選定には、種苗会社のカタログ、カバークロープ導入支援データベースなどが参考になります。



(図1) 東海村におけるカバークロープの作付事例

・等高線に沿った畝立ての実施

風や水による土壌侵食を防止するため、等高線や風向きを考慮した耕うんや畝立てが行われています(図2)。



(図2) 等高線に沿った畝立ての実施(銚田市)

・防風垣による飛散防止対策の実施

北風による侵食を防ぐための対策として、防風垣が設置されています(図3)。風が強い場所では、防風ネットも利用されています。



(図3) 防風垣の設置(茨城県農業研究所)

*水による侵食に対しては、明きよや暗きよの施工、心土破碎などによる浸透性の向上など、土層の改善によって侵食防止を行っている事例もあります。

◆参考情報

・カバークロープ導入支援データベース検索システム

((独法)農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センターHP)
<http://ccropps.narc.affrc.go.jp/>

◆関連法令等

・地力増進法, 地力増進基本指針 (農林水産省HP)

http://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/hozen_type/h_dozyo/houritu.html

・環境と調和のとれた農業生産活動規範について (農林水産省HP)

http://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/hozen_type/h_kihan/